

菩提院真空筆  
百人一首四本



昭和十一年五月五日  
餘り表紙を甚く五依  
神候せり



菩提院真堂百人一首



天智天皇

秋乃田のあはれは、かしの海はあはれ  
やむひは露りぬれし

持統天皇

まろくならささりしは、白妙の  
ふらもがすふあまのくし

柿本人丸

わが乃山さりのた乃さる尾の  
たろくは、あはれひらかしのじ

山色赤人

田子乃...の言ね...宮...ありて

中納言家持

か...乃...を...の  
...文...あり

安倍仲磨

あ...乃...あり...  
...の...あり

小野小町

花乃色...乃...あり

喜撰法師

わ...乃...あり...あり

僧正通昭

あ...乃...あり...あり

蝉丸

こねやこのりもかつるもりきく  
きくしししゆねもあふさよのせき

河原たたら

乃ら乃くはあふもらこりきあふ  
うらなふゆのりやまなしうまに

え孝て望

君つたあけらのせふあくわさつじ  
あなよりり常はあつて

春深堂

お田乃原半端つひくくはあわ  
人よはたをよりあふ乃つらあね

松丸ちえ

おくしりお茶あふさなくあ  
ふえきくあふ秋しるり

中納言行平

立別まふはのひ乃らねあ  
あふしきうしこつらこじ

五原業平朝臣

子早振神代もさうすくすく川

くくし子井もあつくまじい

友原敏行朝臣

もろ乃にれきうもろ浪をくや

ゆめれかふひちん人あつくくじ

陽成院

ほくもね乃にねわおつるれのか

あうはくもりくもらとちわぬ

伊勢

あふくくさうりたあ一のりのも

あつくこつたびのうてうや

えの親王

いねれとけつたる那岐なる

力をつうてもあしむも累

源宗行朝臣

山くはみうきひし海よりれ

人免もくもれねとたし

素性法師

しこうじとんひり  
まぬの月成まらいてつるま

菅家

こなきいぬこしとあつていひ  
しから乃ち一と神のまふく

志忠岑

有ぬ乃つれかゝるえりわし  
あつていけりわづこさ知る

藤原具成

きしなるとちんふせじさゆの  
まじりしのことたしきた

春道烈樹

山川よか坊乃もつら  
まれもあつねる葉ちりり

清原深喜文

なつのはまきふいなるぬ  
を乃いけふ日や

貞信云

なつと山登りしそら糸つるあま  
いしひらひのこひふまゝ心

三條老女

るのたけあふく山乃ま  
人しきりくくろく

中納言道福

見方くくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく

凡河内守

うらあ〜〜〜やむし物書  
な〜〜〜き〜〜〜乃

紀友則

む〜〜乃いりのけ〜  
きり〜〜なく花のら〜

文屋康秀

あ〜〜小秋の草本れ  
り〜〜坊はわ〜〜

紀貫之

人あいにあはるるもちとあはるる  
いれりけりけりのふもひを

坂上皇則

あははるあまの月とみそふ  
けりのこゝたあはるる言

大伴家持

月とねしの物とあはるる  
ふあひりつ乃秋あはるる

春議等

あはらふ乃小野花志のこゝあはる  
あはりけりけり人のこゝ

文屋朝康

あはるる風の吹く秋の燈  
あはるるあはるるあはるる

大伴

あはるるあはるるあはるる  
人のあはるるあはるる



中納言教忠

あひまゝく乃枝のころふさふさ  
しつゝいものもたはなふりか  
り

平過感

あふれくろりあふらふあふ  
し  
のやふふく人乃やふふまうく

志生忠貞

あひすくふわなまうくくはらま  
り  
人たれとくうおしいうめり

藤原義孝

あつを免わくくうくくあはは  
ら  
たうもふとおもいゆかふ

藤原実朝

かくくくくくくくくくくくく  
く  
けくもくくくくくくくくくく

藤原元成

あはれくくくくくくくくくく  
く  
なぐうくくくくくくくくくく

忠度法師

空海法師の御書  
人より名を承けし御書

三乗院

あふりしあふりしあふりしあふりし  
あふりしあふりしあふりしあふりし

儀同二日母

あふりしあふりしあふりしあふりし  
あふりしあふりしあふりしあふりし

道徳云

あふりしあふりしあふりしあふりし  
あふりしあふりしあふりしあふりし

中納言朝忠

あふりしあふりしあふりしあふりし  
あふりしあふりしあふりしあふりし

清原元盛

あふりしあふりしあふりしあふりし  
あふりしあふりしあふりしあふりし

源重

風成りてみ岩うつがらふをのけ  
くけくわびたふらんれ

普祿好志

世よりをわらるる舟へら成し  
り来しきくぬいのみらるる

大申た能宣朝

乃つてしより海まのくくた乃つて  
いりききしはくしより成るる

大將道徳母

まけさつてひりわらふのあたる  
いりききしはくしより成るる

能因法師

あつてぬじられ山のまみらる  
きつての川ののりききしはく

正暹法師

さしはふやとまをくまじは  
いりききしはくしより成るる

大納言云々

龍乃をくはさるるそくくたむれ  
ふくろみくたむれ

注の細て

取とあく鳥乃うねはるる  
うふあふまの美るゆり

泉或部

あらしじりあまのあしひ  
うらむひのあふすしる

大貳三位

あつあつあまのあしひ  
うらむひのあふすしる

赤清右衛門

やすしんくねのまう  
くふくそその月成

朱式部

りくあひくみやうはね  
あふれりあまの月成

伴海大補

ふし乃のふしやこのいささ  
ふし乃のふしやこのいささ

小武部内侍

大江のつねの君られをなれし  
ふし乃のふしやこのいささ

権中納言定頼

おろしあがらの川にわをぬき  
ふし乃のふしやこのいささ

左京左近衛

しほふたひ絶たじとさるは  
ふし乃のふしやこのいささ

目防内侍

去乃の身そらなるたさるは  
ふし乃のふしやこのいささ

大納言理任

あふし乃のふしやこのいささ  
ふし乃のふしやこのいささ

第大僧正行等

皇海とていふありしは、おのふいふとて  
祀りありありとて、さるる人より

お中納言、這房

さるる乃おのいば、さるるさるるい  
さるるのいす、さるるい、さるるい

祐子内親王家記

をいふさるるさるるの、涙のあはれ  
か、さるる神のい、さるるい、さるるい

相模

うらえりい、か、さるる神、さるるい、さるるい  
い、さるるい、さるるい、さるるい、さるるい

宗法

概をいふ、さるるい、さるるい、さるるい、さるるい  
さるるい、さるるい、さるるい、さるるい、さるるい

侍賞門、辰堀川

か、さるるい、さるるい、さるるい、さるるい、さるるい  
さるるい、さるるい、さるるい、さるるい、さるるい

正徳通和蘭白紙

乃乃原手出くこれしるる乃  
せ井はゆふたきう

左京左近衛

秋風しふじくをのこしゆら  
もれあつ月のかげ乃さやけ

源通昌

あらし流あふふのりたぐり  
く春祿さめね次乃用守

藤原孝俊

驛をけしとせも露成のらな  
あらしと年の秋もいねあ

道因法師

木心ひりえくもめらあるわん  
うさふくふあなみそちり

右原清信

かしく又乃らやのしむ  
ししあははひり

後述法師

東もすしつ物もふらぬやね  
祓やのひまきこつれがらふら

後述法師

かきくや吹くさうらうら  
こまぬの月くわらわら

皇太后太后

右乃もよからうらうら  
山のおく中心麻くたぐら

西川法師

まげくさく月やいよのなをわしつら  
かろらふなら家ながせつら

皇太后太后

なふらぬ此ありのりぬの一本  
も成つてさやひわらつら

教皇門後大輔

見えけやふをまのほけ神た  
われもうわら色かつら



式子の親王

玉乃をより絶たはるゝ弁して  
おのゝもりのよりわらうす

東蓮法師

しつゝのつせしうゝひね核の葉よ  
こわくらのりる秋のゆふ

二条院漢波

わらひいさふおのりかをね仲の死  
人くちまねうけしきも

坂東極權政若夫政下

きわくはるやお水ののしり  
うしうしきしりか

東大僧正無念

むかふたぐにせれぬりおるふ  
わらわらわらすみくめれ神

参議非理

月りの燈の山れ秋の燈より  
あさじく夜らた

龜倉太右衛門

世中さうねしうもれぬのさけく  
あまの小有れ乃つてさくさくし

正二位家隆

風うよくながらの小川のゆふれ  
見うさそ我ながら乃ちるしちりる

松中納言定家

こねんぼしう下のこねゆある  
屋くやししかのあしこし

入道前太政大臣

もふしそふあしのなれ君のそ  
ありりもものわりたなり

後鳥羽院

人常おんしうのあらはれ  
うばなふつておねふあ

大徳院

もくさやつさけのきふし  
なびあかりはるしちりる

129442

出天  
千  
月

